東京都渋谷区北谷町32
〈461〉 5330・8853・~~5717~~
5717

学校法人 桑沢学園

桑沢デザイン研究所
入学案内
1964

教育の趣旨

デザインは製品の外面的な装飾であったり　単に購買欲をあおるための表現であるのではなく　人々の生活のために　工業生産や視覚伝達・生活環境をより快適なものにしてゆこうとする造形活動であって　単なる自已表現というより社会的な表現といえましょう　したがってデザイナーは現代の産業や社会がはらむ矛盾を解決する文明的な使命をもつものであり　離間している人間と機械　美術と技術　精神と物質を総合して　明日の生活様式や精神風土を創造することを期待されているというべきであります

そのために桑沢デザイン研究所の教育は　鋭い造形感覚や構成力　的確な技術また豊かな創造力を身につけ　新しい物の見かたや考えかたをつかみ　デザインの本質を体得させることに重点をおいています　そして広い視野と深い教養をもった人として　社会のなかでデザインをとおしてよく協同理解し　根強く謙虚に社会の進歩に貢献しうる人材の育成に力がそそがれ　着々とその成果を示しつつあります

それは　当初から純粋にデザイン教育の場として　基礎教育と専門指導　実習と学科　個性と原理のひびきあう特色ある教育計画と　第一級の教授陣の指導のたまものというべきでありましょう

沿革

創立にさきだつ10数年以前より　桑沢所長はデザイン活動をとおして　デザイン各分野の総合的な専門教育　および　それらの基礎教育の重要性を痛感されていた　このような所長の理想と情熱に共感された現教授の方々の協力をえて　東京都港区青山に桑沢デザイン研究所〈所長・桑沢千代（洋子）〉を設立した

昭和29年（1954）　4月――桑沢デザイン研究所設立
昭和32年（1957）　12月――学校法人・桑沢学園　桑沢デザイン研究所となる
昭和33年（1958）　4月――校舎を現在の渋谷区北谷町に新築移転
（鉄筋コンクリート3階　延671M²　設計・増沢洵建築設計事務所）
昭和35年（1960）　4月――第1次増築（延1303M²）
昭和36年（1961）　12月――第2次増築（延1615M²）
現在　教職員　169名　学生総数　1200名

目次

前がき……1
学年・クラス編成……2
卒業後の諸分野……3
I部リビングデザイン科説明……4
リビングデザイン科1年……6
リビングデザイン科2年……7
リビングデザイン科3年……8
I部ドレスデザイン科説明……10
ドレスデザイン科1年……12
ドレスデザイン科2年……13
ドレスデザイン科3年……14
II部説明……16
基礎造形科……18
ビジュアルデザイン科……19
プロダクトデザイン科……20
ドレスデザイン科……21
施設……22
教員一覧……23
入学手続……24
学費……表3

学年・クラス

卒業後の方向

ここに掲げた図はリビングデザイン科・ドレスデザイン科を卒業後　すすみうる方向のあらましを左右の線で示したものです

リビングデザイン科の卒業生はおもにグラフィックデザイン・インダストリアルデザイン・写真・パッケージ・室内家具デザイン・ディスプレイ・デザイン教育・編集レイアウト・住宅デザイン・テキスタイルデザイン・映画・テレビなど広い分野において　会社のデザイン企画部・設計部・広告宣伝部・デザイン事務所などで活躍し好評です　就職の条件はほとんどが大学卒と同様にむかえられています

ドレスデザイン科の卒業生はおもに百貨店・既製服会社・繊維関係商社・洋裁店のデザイナー・カッター・縫製関係　および服飾雑誌などの編集　教師　織物会社研究室・パターンデザイナーなど広い分野で活躍し好評です　就職の条件は大学卒なみにむかえられています

1部 リビングデザイン科

この科は3年制で　生産・環境・伝達に関する広範なデザイン(ドレスデザインを除く)の諸分野の大学程度の専門教育をおこなっています
1年ではどの分野のデザイン活動にも共通する基礎の学習として　造形感覚をみがきその構成力をのばすことを主眼に教育するとともに　それぞれのデザイン分野の意義やそれらの関係を正しく把握し適性をみいだすために　生活空間　生活機器　視覚伝達の概括的な指導がおこなわれます　2年ではグラフィック　インダストリアル　インテリア・住宅のいずれかのデザインを選択して　それぞれの方法として分析・発想展開・表示について要素技術をふくめた　基礎デザインの学習が中心に進められます　そして写真実習が共通に課せられ　またパッケージ・ディスプレイ・レタリングが選択必修ということになっています　2年を良い成績でおえ　しかもデザイナーとしての志の確かな人を少数に選抜して3年では　グラフィック　パッケージ　写真　インダストリアルおよびインテリア・住宅の各デザイン専攻にわかれ　徹底した専門教育をおこない　その成果を挙げています　各学年ともデザインを正しく把握するために精選された貴重な教養学科も組まれています

リビングデザイン科 1年

1年では各種の分野のデザインに共通する基礎の学習として　造形感覚をみがき　その構成力をのばすことを大きい目標としています　それは雄弁や理窟にまさるデザイナーに欠くことのできない能力でなければなりません　そのために固定した概念にとらわれないで　いろいろの材料・用具による実習をとおして　新しい物のみかたや考えかたを　それぞれの学生が感じとることに重点がおかれています　それは個性的な傾斜と本質的な原理の対立の中でたかめられてゆくものといえましょう

また専門分化する傾向にある現代のデザイン活動に対応してゆける　巾のある全人的な成長を確かなものにするために　各種の教養学科も重視されます

第一歩から始める人のためにも　また既にいくらかの経験をもっている人のためにも　現代デザインのそれぞれの分野やそれらの関係の正しい理解と志望の選択のために　各種デザイン分野の概括的な方向づけの授業も組まれています

また2年の学習展開を容易にするための基礎的な要素技術指導も行われることになっています

●基礎造形

Ⅰ構成実習　色彩・平面・立体・構造

Ⅱ表示練習　図法・文字

Ⅲ表現実習　絵画・彫塑

●基礎デザイン

Ⅰ生活空間　Ⅱ生活機器　Ⅲ視覚伝達

●教養学科

人文科学概論　社会科学概論　自然科学概論

英語　美術史

リビングデザイン科 2年

2年は1年の基礎的な学習の上にたって　やや具体的な条件をともなったデザインの総合的な基礎学習にはいります

造形的な感覚をますますみがき　構成的な思考力をいっそう伸ばすための学習を継続発展させることはもちろんですが　機能・構造・意味などの条件を技術的な抵抗や特性をとおして　造形的に統合する発想や過程の体得を　包括的で基礎的な課題によってなされます

具体的には　視覚伝達および工業生産・生活環境の立場から　ビジュアルデザインとプロダクトデザインの専攻に別ける授業をもうけ　ビジュアルの面では　印刷デザイン実習に　プロダクトの面では　工業デザインと室内・住宅デザインの基礎的な実習に重点がおかれます

どちらの面の学生も写真は課せられ　また包装展示・文字のうちから選択実習させることになっています　ここでも職人的技術の伝習でなく自主的で創造的な態度や追求が期待されることはいうまでもありません

科目内容

●基礎造形

Ⅰ構成実習　Ⅱ表現実習

●ビジュアルデザインの基礎

グラフィックデザイン

●プロダクトデザインの基礎

インダストリアルデザイン

インテリア・住宅デザイン

●写真

●レタリング　パッケージング　ディスプレイ

●教養学科

デザイン史　デザイン論Ⅰ　英語

リビング
デザイン科

3年

グラフィックデザイン　写真　パッケージデザイン　インダストリアルデザイン　インテリア・住宅デザイン

2年の課程を良い成績で修了した人で　ライフワークとしてデザイナーの道を進もうとする志の確かな人の中から　適性の専攻を審議のうえ個人指導とチームワークの可能な少数に選抜して　それぞれの専攻ごとにデザインの専門教育が行なわれます

グラフィックデザイン・パッケージデザイン・写真・インダストリアルデザイン・インテリア住宅デザインの専攻コースに別れ　各専攻コースの主任教授を中心とする第一線のデザイナーや理論家・技術者などの教師のもとで　研究所独自の課題研究が討議や実習によって進められそれぞれの学生が専門家としての地道な研鑽を深めてゆきます

そこでは直接　教師の人柄・思考過程・技術指導にふれるとともに　自主的な問題解決の態度や考えかたが啓発されます　また特殊講義や工場見学・職場実習などによって現場の実際も指導され　各分野の職場に新鮮な寄与の出来る自信や希望がもり上がってくるものといえましょう　年限こそ3年でありながら研究所独自の真摯な教育は大学に優るとも劣らぬ成果を挙げています

●専攻科目

グラフィックデザインの理論と実習
パッケージデザインの理論と実習
写真の理論と実習
インダストリアルデザインの理論の実習
インテリア・住宅デザインの理論と実習

●教養学科

デザイン論II　デザイン論III

●特殊講義・見学・職場実習

1部 ドレスデザイン科

ドレスデザイナーは　日本の繊維産業界において　デザイナーとしてのみでなく　テキスタイルデザインを含めての工業生産のためのディレクター　あるいはコンサルタントとしての重要な立場をもつ段階になりました
当所のドレスデザイン科は　デザインの本質とデザイナーとして必要な広い教養を身につけさせることに重点をおくと同時に　ドレスデザイナーとしての造形力を把握させることに目標がおかれております
3年課程のカリキュラムのうち　特に1年課程においては　ドレスデザインの基礎技術と平行して　各種のデザインに共通の造形感覚の基礎訓練を行い　各人の個性を引きだし　観念的なものを打破しながら　のびのびと新鮮な創意を発揮できるような教育をおこないます
2年　3年においては　基礎技術を応用技術に発展させながら　職能人としての能力を身につけさせ　服飾界および繊維界の　すぐれたデザイナーやディレクターの深い体験による指導と夏季現場実習などによって　多角的に　ドレスデザイナーとしての教養を身につけさせ　工場その他の各種見学　服飾調査などにより　視野をひろめることにも力を注いでいます

ドレスデザイン科 1年

1年は　3年間のドレスデザイン教育の基礎学習にあたります　そこでは次の3項に重点をおいて指導されます

1　デザインの基礎感覚をみがき　構成力を系統的にたかめます

2　当所が独自に研究した合理的な製図と裁断理論にもとずいて　技術の実習をします

3　洋裁のための感覚・技術の学習のみでなくデザインを学ぶものにとって必要な造形教養および一般教養を学び　広い視野をもった人間として成長することに主眼をおきます

以上　単なる家庭裁縫としての洋裁とは　本質的に異ったところから出発しているため　造形感覚の基礎訓練を徹底しておこないながら　技術その他の面に反映させ　次第にデザインの本質へと導入してゆきます　1年の見学は広い観点から計画されています

科目内容

●基礎造形

構成実習Ⅰ　色彩の基礎理論と実習

表現実習（絵画）石膏デッサン　ヌードデッサンその他

●教養学科

人文科学　社会科学　英語Ⅰ

●ドレスデザイン

デザイン理論Ⅰとデザイン実習Ⅰ

ドレスの構造　性格　用途　個性と体型　産業とデザイン　生活とデザイン　流行解説　ドレスデザインの基礎感覚実習

技術理論Ⅰと技術実習Ⅰ

基礎製図理論と実習　縫製実習

被服材料学

ドレスデザイン科 2年

2年は　1年から積み重ねられてきた基礎造形とドレスデザインの基礎理論および実習が　更に充実した内容をもって系統的に把握されます　すなわち基礎理論と対応させながら応用面へ展開し　デザインの発想練習をかさねて　次第にドレスデザインの方向へ焦点をしぼり　各人の個性を発見しながら創造力をたかめさせます

技術の面では　基礎製図の発展から　立体の量感を把握させるためのモデリングまで学び　デザインの実際的な表現技法として習得させます

また2年終了で職能人となる人のためにも　ドレスデザインのみでなく　他のデザイン分野への関心をもたせ　日本の産業界における服飾デザインのあり方を認識させます

教養学科は深く広くなり　充実した内容が組まれ　各種見学　調査研究なども　あわせておこなわれます

科目内容

●基礎造形

構成実習Ⅱ　平面

●教養学科

造形史　デザイン論Ⅰ

英語Ⅱ（自由選択）　仏語Ⅰ（自由選択）

●ドレスデザイン

デザイン理論Ⅱとデザイン実習Ⅱ

基礎理論の展開　デザインの発想練習　デザインの感覚練習　コスチュームドロウイング

技術理論Ⅱと技術実習Ⅱ

基礎製図の展開　応用製図の理論と実習　モデリング　縫製実習

被服概論　服装史

ドレス
デザイン科

3年 ドレスデザイン　テキスタイルデザイン

ドレスデザイン科の最終コースであり　職業人として社会に巣立つ人達を選出して構成するクラスです　各人の才能と希望とによって　デザイン専門コースとテキスタイル専門コースとにわかれます

デザイン実習では　種々な角度からの豊富な課題にとり組んで　創造力と表現力を高め　モードやファッションを本質的に把握しながら　現場デザイナーに必要な広範囲の知識　教養を身につけます　モードドロウイング　舞台衣裳　ピンワーク　帽子　写真　文字　レイアウトなど　卒業後　ドレスデザインに深い関連をもつ分野についても学びます

技術面では　高度の裁断理論と立体裁断を中心にデザインの表現技法を深めます

テキスタイルコースでは　織・染の実習を中心に　パターン実習　染色化学　組織　織物設計　繊維企業など専門講師の指導が多角的になされます　このコースは　特に最近　繊維企業界　服飾産業界に需要の多い　繊維ディレクターとなるために必要な授業内容をもっています

教養科目は社会人としての巾の広い人間形成に役立たせるよう組まれています

科目内容

●両コース共通科目

教養学科　デザイン論II　仏語II（自由選択）
被服各論

●デザインコース専門科目

ドレスデザイン　デザイン理論III・デザイン実習III　技術理論III・技術実習III

●テキスタイルコース専門課目

染色実習　織物実習　パターン実習　テキスタイル通論

2部

II部は昼間社会人として職業をもつ人や他の大学に通っている人がデザインを学ぼうとする意欲ある人のためのコースで　夜間の特殊性に応じ1年間で完結する独自なカリキュラムが組まれています　基礎造形科は各種のデザイン活動に共通する豊かな造形感覚や構成力を体得することに重点をおいています　将来専門分野を志す人や現在デザイン分野で活動している社会人にも　概念にとらわれない新鮮な感覚や発想の基礎の充実に適しています　　ビジュアル・プロダクト・ドレスの各デザイン科は　それぞれのデザイン関係に経験のある人や　基礎造形科の課程を修めた人のためのクラスです　プロダクトデザイン科はインダストリアルとインテリア・住宅のデザイン専攻コースに別れて教育が進められます　いずれの科もそれぞれのデザインの理論や分析・発想・展開・表示の研究・実習を中心に材料学や写真実習が必修となっています　そして広い要求に応じるために高度のまた産業界と密着した内容の選択科目を拡充しています　創立以来高い年令・学歴の人や派遣されたりして集った広範な職業人へのII部独自の教育や友情が　デザイン界にはたした貢献ははかりしれないものがあるといえましょう

基礎造形科

基礎造形科は　広範囲の造形活動における豊かな造形感覚や構成力を体得することを目的としています　将来　専門分野を志す人　および現在　専門分野で活動している社会人にも　概念にとらわれない新鮮な感覚や発想の基礎の充実に適しています

科目内容

●構成実習――色彩・構成・構造

各種の材料・用具を体験し　それらの造形的な可能性を発見し造形の考えかたを拡充させます　すなわち形態・色彩・材質・空間など　造形要素とその相互を構成する感覚を　2次元(平面)3次元（立体）ないし4次元にわたり鋭敏にし造形のもつ構造・機能・意味との関係の基礎を体験させてゆきます

●表示練習――図法・文字

着想や事物を客観的な図で表示する能力を養うために　基礎的な図学の理解や見取図の練習を主にし　あわせて標準的な文字の基礎的練習が行なわれます

●表現実習――絵画

各種の素材の絵画実習によって　対象から受けた印象や感動を卒直に自由に表現する力を伸ばすとともに　対象を観察究明することによって具象　抽象に共存する造形の本質を把握させようとします

●教養学科

造形原論　近代美術史　造形社会学　造形心理学　と精選された貴重な講座が必修です

●以上の他に　プロダクトデザイン方面志望者のためには構造実習　ビジュアルデザイン志望者のためには文字練習を選択させます

ビジュアルデザイン科

この科は基礎造形科の課程を修めた人や　グラフィックデザインなどビジュアルデザイン関係に経験のある人のためのクラスです

ここではグラフィックデザインを中心に学習が展開される一方　印刷技術と写真による表現力の指導が　要素的基礎的な学習から総合的・具体的なデザイン指導へと進められてゆきます

その間にデザインの基本的な問題を正しく認識把握させ　ビジュアルコミュニケーション（視覚伝達）の能力や態度の伸長に重点がおかれています

そのほか　造形感覚やその構成力を一層のばし自由な発想力の基盤の充実のために　構成および絵画を　またビジュアルデザイナーとしての広い要求に対応するために　パッケージデザイン　ディスプレイ　テキスタイルデザイン　またより技能を高めるためのレタリング　イラストレーション　それからデザイナーとしての広い教養を身につけるためにデザイン論が4講座選択できるように組まれています

科目内容

必修科目

グラフィックデザインの理論と実習

印刷技術・写真実習

選択必修科目

構成

絵画

パッケージデザイン

ディスプレイ

レタリング

イラストレーション

デザイン論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ

プロダクトデザイン科

この科は　基礎造形科の課程を修めた人や　プロダクトデザイン関係の仕事をしている人を対象とし　さらにこれからのデザイン界に寄与しようとする人を養成することを目的としています

実際の授業はインダストリアルデザインのコースとインテリア・住宅デザインのコースの実習にわかれて　それぞれの教育が行なわれます

すなわちインダストリアルデザインコースではデザインのための分析・発想・展開　またその表示のための　ドローイング　モデリング　レンダリングなどの技術指導が行われます　またインテリア・住宅デザインコースでは　生活空間に対する正しい考えかたや　家具・室内設計や住宅設計などの指導がなされます

どちらのコースも　それぞれに応じた材料学また写真実習も必須になっています

いずれも発想や思考の過程を重視し　新しい材料や生産技術をデザインに活かし　明日の生活様式や精神風土を創造する根本的な態度の育成に重点がおかれております

科目内容

必修科目

インダストリアルデザインの理論と実習
インテリア・住宅デザインの理論と実習
材料学・写真実習

選択必修科目

構成・絵画・レタリング・イラストレーション
パッケージデザイン・ディスプレイ
テキスタイルデザイン
製図・建築構造概論
デザイン論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ

ドレスデザイン科

この科は　基礎造形科の課程を修めた人や　ドレスデザインおよびその技術の経験を1年以上もった人を　おもに対象にしています　ここでは短期間に　ドレスデザイン全般についての知識を深められるように考慮され　産業の中でのドレスデザインのあり方や方向を認識させ　社会性のあるデザイナー・ディレクター・エディターなどを養成することを目的としています

デザイン実習は　基礎理論と対応させながら応用面へ展開させます　デザインの感覚練習　発想練習をとおして　概念的なものを打ち破りながら各人の個性を発見し　創造力をたかめます

さらに　表現技術として　モデリングを中心にした技術面の勉強では　立体の正しい量感を把握させます

ドレスデザインの専門科目の他に　テキスタイルデザイン　基礎造形　教養学科の中から　自由に選択して学ぶことができます

科目内容

●ドレスデザイン

デザイン理論とデザイン実習
　基礎理論とその展開
　デザインの発想練習
　デザインの感覚練習
　モードドローイング
技術理論と技術実習
　基礎理論の展開
　モデリングの技術指導

●選択必修科目

テキスタイルデザイン　構成　絵画
レタリング　イラストレーション
デザイン論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ

施設

教員

教養

芦原初子
阿部公正
出原栄一
泉真也
一柳慧
岩波正幸
小幡章
神之村あやめ
霧生和夫
島田厚
清水幾太郎
高根正昭
中川作一
野田真吉
信定宏郎
浜口隆一
林進
針生一郎
南博
宮内嘉久
村上一郎
村松貞次郎
山田耕雲
山本顕一
和田勉

基礎造形

朝倉摂
岩野勇三
上野操
海本健
尾崎ふさ
清原悦志
郡山正
佐藤忠良
須賀攸一
高橋芙蓉
高橋正人
高山正喜久
田中淳
羽原粛郎
真鍋一男
宮沢タイ子
森田信夫
矢野目鋼

ビジュアルデザイン

粟津潔
石元泰博
伊藤知巳
祐乗坊宣明
大辻清司
勝井三雄
勝見勝
亀倉雄策
河合玲二
川添登
川俣正一
杵島隆
草刈順
楠原義一
古口謙二
後藤英雄
小柳誠一
佐藤敬之輔
佐藤浩
佐野寛
重森弘淹
杉田豊
高橋満寿男
滝口修造
田中一光
塚田敢
東松照明
灘本唯人
羽仁進
浜田浜男
原弘
平野久
保積英次
福田繁雄
道吉剛
向秀男
目島計一
森啓
矢沢宏司
山城隆一
山本茂
山本隆太郎
横山徳禎
脇リギオ

インダストリアルデザイン

相沢正
青木恒太郎
芦原晋
淡島雅吉
石倉巌
内村喜之
魚住双全
金子至
喜多智慧夫
ジョセフ糠沢
寿美田与市
玉崎洋一
手塚敬三
豊口克平
皆川正
村越康

インテリア・住宅デザイン

稲田尚之
戎居研造
小能林宏城
狩野雄一
川島忠一
北村吉一
剣持勇
坂田種男
篠原一男
白石勝彦
清家清
中村圭介
林雅子
原宏司
平原なお
松村勝男
山口勇次郎

ドレスデザイン

青木美津枝
東昇
安東武男
飯塚春次郎
五十嵐都美
石津謙介
海本小織
大空淑子
小川安朗
奥光次
川合優
北岡幽子
木村美知子
熊井戸立雄
国方澄子
桑沢かね子
桑沢君子
桑沢洋子
小寺典子
根田みさ
近藤英
近藤百合子
佐久間美代子
笹原紀代
佐藤みさ子
佐野正男
鈴木栄三郎
谷長二
谷二三
丹野郁
塘和夫
砺波宏明
土肥悦子
豊田高代
中島道子
中田幸夫
塙経充
福村千英子
前田晃子
真野誠二
宮内裕
村岡寿枝
本吉春三郎
森妍子
諸岡美津子
柳沼恵美子
柳悦子
山本良子
湯原五郎
横田経子
四本貴資

入学手続

部	科	年	選考回数	選考日	願書〆切日	選考方法 学科	選考方法 実技	選考方法 面接
I（昼）	リビング	1	2	2月15・16日(土日) 3月27・28日(金土)	2月12日 3月24日	国語(現代文) 英語	鉛筆デッサン　正投影図法（第三角法の理解と描図）平面構成	〃 有
	ドレス	1	2	12月22日　(日) 3月17日　(火)	12月19日 3月14日	国語(現代文) 英語	鉛筆デッサン 平面構成	〃 有
		2	1	3月17日　(火)	3月14日	国語(現代文) 英語	鉛筆デッサン ドレスデザイン	〃 有
II（夜）	基礎造形		2	1月26日　(日) 3月22日　(日)	1月23日 3月19日	国語(現代文)	鉛筆デッサン　正投影図法（第三角法の理解と描図）平面構成	〃 有
	ビジュアルデザイン		1	3月8日　(日)	3月5日	〃	専攻に関する実技 鉛筆デッサン	〃 有
	プロダクトデザイン		1	3月8日　(日)	3月5日	〃	〃	〃 有
	ドレスデザイン		1	3月8日　(日)	3月5日	〃	鉛筆デッサン ドレスデザイン	〃 有

入学資格　高校卒以上　色神正常者　男女年令は問はない　ただしI部1年とII部　基礎造形科以外は各専門経験者

出願手続　提出書類●入学願書（所定のもの）●写真（3枚）●最終学校の成績証明書　●身体検査書（所定のものに最寄り医師の証明のあるもの）

選考料　●I部・II部共¥3000円

願書受付　12月1日より（日曜・祭日を除き毎日　午前9時より午後5時まで）

9時30分　5時30分

選考　願書〆切日●選考日および方法は上記の表の通り

合格発表　各選考日の翌々日正午　校内に掲示し　合格証等の書類を渡します

入学許可　合格者は発表日から10日以内に本学事務部に所定の手続をして入学の許可を受けて下さい　この手続がおくれると入学の意志のないものと認めて補欠者に許可をあたえることがあります

印刷＝株式会社藤栄 25

学費

部	科	学年	選考料	入学金	授業料	設備拡充費
第I部（昼）	リビングデザイン	1	3,000	40,000	年　42,000	20,000
		2			年　42,000	
		3			年　42,000	
	ドレスデザイン	1	3,000	40,000	年　42,000	20,000
		2	(3,000)	(40,000)	年　42,000	(20,000)
		3			年　42,000	
第II部（夜）	基礎造形科		3,000	20,000	年　30,000	10,000
	ドレスデザイン科		3,000	20,000	年　30,000	10,000
	プロダクトデザイン科		3,000	20,000	年　30,000	10,000
	ビジュアルデザイン科		3,000	20,000	年　30,000	10,000

入学式　昭和38年4月10日

その他　各学年への一部聴講・途中入学はできません

各学年とも修学は（4月～3月）で毎日授業となっています

第I部は　週24時間以上　第II部は18時間以上の授業を行います

寮・寄宿舎はありません

学割の利用ができます

案内書　郵送料共 100円

学費　学費は上記の表の通りです

その他　（ ）内の学費は補欠入学者の納入するものです　第II部の再入学者は上表の内入学金は半額とし　設備拡充費はいりません　授業料は6ケ月前納をたてまえとします●一度納入したお金はいかなる理由があってもお返しいたしません　教材費等は入学時に説明します　他に同窓会費として入学時に2000円納入のこと